

令和5年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における玉造小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年4月から令和5年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動をご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学校部第5学年の原則として全児童
- ・玉造小学校では、5年生 117名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

- イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）
を実施する。

令和5年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証 学校の概要

玉造小	学校	児童数	117
-----	----	-----	-----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	19.28	20.79	29.27	40.25	50.02	8.98	159.98	22.27	55.82
大阪市	15.97	18.72	32.66	38.27	45.10	9.50	147.92	20.35	51.13
全国	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	9.48	151.13	20.52	52.59
女子	16.38	19.79	37.41	37.81	38.66	9.35	149.54	14.29	56.28
大阪市	15.88	17.85	37.44	36.49	34.75	9.74	140.20	12.69	52.67
全国	16.01	18.05	38.45	38.73	36.80	9.71	144.29	13.22	54.28

結果の概要

体力合計点は、本校男子は55.82ポイントであるのに対し、全国平均が52.59ポイント、女子は本校が56.28ポイントであるのに対し、全国平均は54.28ポイントと男女ともに2~3.23ポイント上回る結果となった。

「運動やスポーツをすることは好きですか」との問い合わせに関しては、肯定的な回答をした割合は、本校男子が95.8%に対して全国が92.9%、本校女子が85.5%に対して全国が85.7%と男子は2.8ポイント上回ったものの女子は0.2ポイント下回った。

1週間の総運動時間が60分未満の児童は、本校男子が11.1%に対して全国が11.0%、本校女子が4.8%に対して全国が16.3%であり、男子は全国平均とほぼ同じであるが、女子は11.5ポイント下回っており、全国平均と比較して運動していることがわかる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

体力合計点をはじめ、ほとんどの種目で全国平均を上回ったが、男女ともに「長座体前屈」「反復横とび」が全国平均を下回った。

「反復横とび」については、本校で継続的に取り組んできた「なわとび運動」が俊敏性の向上に好影響を与え全国平均との差が縮んできている。「長座体前屈」については、体育の授業の中でのストレッチ運動や、始業前の姿勢体操など柔軟性を高める取り組みを継続して行っている。その成果もあり全国平均との差が縮まっていると考えられる。

運動場が狭い、児童数が多い等の課題は今後も続くが、限られた環境の中であっても、より効果的に児童の体力を高める方法を工夫してきたい。